

溶接・切断など低コスト

最新レーザー技術 加工システム開発

【名古屋】最新レーザー技術研究センター（愛知県安城市、沓名宗春社長）は、溶接や切断などさまざまな加工に対応し低コストで導入できるファイバーレーザー加工システム



「ALIM S-2」写真「真」を開発、発売した。価格は仕様によって異なるが、200

0万円（消費税抜き）以内。安価な海外製振器を採用し、加工ヘッドやロボット、周辺装置一式でも総額を抑えた。初年度の販売目標は5台。アシストガスの調整やノズルの交換により溶接や切断以外に、穴開け、焼入れ、バリ取りと幅広く使用できる。

る。レーザービームを制御する3次元（3D）スキャナーを利用すれば曲げ・成形加工、肉盛り、接合前の材料の下地処理、金属と樹脂の接合などにも適用できる。システムを構成する各種部品ごとの提供も可能。沓名社長は「レーザー加工装置を導入したくても高価だという先入観を持っている中小企業に提案したい」と開発の狙いを語る。